

解答

一

- ① 課 ② 留 ③ 責 ④ 刀 ⑤ 候

二

- ① 治 ② 慣 ③ 覚 ④ 矢 ⑤ 織

三

問一 建てられたモノそれ自体を指す意味と、建てるという行為、つまりコトとの二つの意味。(40字)

問二 建物は、コンクリートの塊や材木の束が、意味ある位置に、意味ある形で配置し、組み合わせられたものだから。(49字)

問三 建築とは、複雑で混沌とした状態にある物体と機能に秩序を与え、人間にとって了解可能なものにとりまとめることである。(57字)

問四 つくる対象が大規模かつ複雑で多種多様な主体が関わる場合、そして使う人をつくる人が異なる場合には、つくり方を記述し共有する、つまりつくり方をつくる人が生まれるということ。(85字)

四

問一 長谷川さんと一緒にいると、誰もが容姿を比べ劣等感を抱くことになるから。(35字)

問二 はみ出していた下着を隠してやろうと体操着の裾を引っ張った時、怖い顔をされたこと。(40字)

問三 お腹にある大きな手術跡をかくすため。

問四 長谷川さんと一緒にいると劣等感から卑屈になってしまい遠ざかりたいと思っていたが、長谷川さんが自分の手術傷を見せてくれたのでわだかまりが解け、再び友人関係を深めたいと思うようになった。(90字)

解説

三

問一 6段落目に、『建築』という言葉の面白さは、それが建てられたモノであり、同時に建てるというコトである点にある。』とあるので、『建築』に含まれる2つの意味をまとめましょう。

問二 傍線②と同じ段落（直後の一文）に、「建造物になるため」の必要性が書かれています。

問四 「建築家」の誕生は、施工者ではない設計者の誕生でもある。傍線④を含む同一段落に、「つくり方」を外部に記述し、共有しておくことの必要性が書かれている。どのような場合に必要であるかも、同一段落に明確に書かれているので、まとめる必要があります。

四

問一 傍線①の4行前に、「長谷川さんのスタイルの良さをよけいに引き立てる。」という一文に着目しましょう。

問四 設問では「わたし」の感情が、何をきっかけにどのように変化したかが問われています。傍線④の直前の一文に着目しよう。まず、長谷川さんが自分の手術後の傷跡を私に見せてくれたことがきっかけですね。また以前は自分の劣等感から長谷川さんに近寄りたくないと思っていましたが、これをきっかけに再び友人関係を深めたいと思うようになりました。